

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2019 年度



はじめに

令和の時代を迎えた 2019 年度は、海外移住資料館としても様々なことに取り組ませていただいた年であり、また、今までにない試練を受けた年でもありました。

まず、2019 年はペルーおよびボリビアへの日本人移住 120 周年でした。秋篠宮家の眞子内親王殿下が両国からのご招待を受け、7 月に現地をご訪問されましたが、それに先立つ 4 月に、ご進講およびご視察のため、当館にお越しくださいました。

10 月には日本各地で大きな被害を及ぼした台風が、ここ横浜にも記録的豪雨や暴風をもたらし、また年度末には、全世界的に猖獗を極めている新型コロナウイルスの影響を受け、当館も閉館を余儀なくされました。そのような中であっても、今年度のご訪問者数は 43,043 人、12 月には、開館以来 60 万人目のお客様をお迎えすることもでき、累計ご訪問者は今年度末、61 万人を超えました。これもひとえに、日本人の海外移住をはじめとする関連の歴史、また国際協力に関心を寄せ、ご協力くださる関係者の方々、そして当館の活動を暖かく支えてくださる地域の方々のお蔭であり、厚く御礼申し上げます。

上記ペルーおよびボリビア移住 120 周年を受け、2018 年度末から開催したペルー日本人移民 120 周年記念企画展示「マチュピチュ村を拓いた男 野内与吉とペルー日本人移民の歴史」の他、2019 年 11 月より、ボリビア日本人移住 120 周年記念企画展示「ボリビアに生きる -日系人の生活とその心-」を開催しました。ボリビア移住の独特な歴史から、古い記録は多く残されていないこともあり、現在のボリビアに生きる日系人の方々の証言を中心に構成された、今の日系社会を伺い知ることができる企画展となりました。

それに先駆けて 6 月から開始した企画展示「コーヒーが結んだ日系人と日本」では、初期の日本人移民が従事した農園労働における関係だけでなく、移住者が日本に持ち帰ってコーヒーを飲む文化の普及にも寄与したこと等、日本とコーヒーの関わりについて描きました。現代の生活に馴染み

深いテーマであったため、海外移住に関心をお持ちの方以外にも好評を博しました。

そして2020年3月から開催予定であった熊本県移民に関する企画展示「くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍 -こぎゃんすごか、わさもんと肥後もっこす-」を準備しました。

この企画展示は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、止む無く開催できていませんが、多くの方々のご協力のもとに作成された成果をご覧いただけるよう、本館報に掲載しています。熊本県に多大なご尽力をいただき、一般の方々にも親しみの持てる展示になったと考えており、少しでも早く、皆様にお目にかかれる日が来ることを願っております。

その他のイベントとして、5月に実施し300名近いお客様にお越しいただいたペルーの民族音楽コンサート、6月18日の海外移住の日に合わせた講演会や近年ご好評をいただいている移民クイズとブラジルコーヒーのプレゼント、多くの地域メディアに取り上げていただき、多くの方々に楽しんでいただけたブラジル式の七夕祭り、など、海外移住資料館ならではのイベントを開催してまいりました。少しでも皆様方にお楽しみいただけたのでありましたら、真にうれしい限りです。

また当年度は、以上のような展示イベント活動にも負けず劣らず、資料収集・整理・学術研究にも力を注いだ年となりました。

移住先国における数十年前の貴重な記録を残す海外邦字新聞の収集・整理の取り組みに力を入れ、1950年前後のブラジルの「勝ち組」系新聞が発見・整理されたのも、この成果の一つです。

さらに、日本人の海外移住の150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として、「JICA 海外移住懸賞論文」を創設しました。第1回開催分につきましては、海外移住の日に合わせ、2020年6月18日に受賞者発表をいたしました。

2019年4月に入管法が改正され、日本にも多くの海外からの外国人就労者が訪れる時代になりました。かつては移民の送り出し国であった我が国

の歴史を正しく知っていただき、海外から来日する方々の受入れの参考に
していただけるなど、当館の果たすべき役割が益々大きくなっていると言
えます。現時点（2020年6月）では、新型コロナウイルス感染拡大により
自由な海外との行き来だけでなく当館へのご来場もままならないと思いま
すが、引き続き当館の活動へご支援・ご協力賜りますよう、どうぞよろし
くお願い申し上げます。

JICA 海外移住資料館 館長 熊谷晃子

目 次

1. 展示・教育・広報

- (1) 展示イベント等1
- (2) 教育普及活動9
- (3) 広報活動.....17
- (4) アンケート調査.....19

2. 資料収集・整備

- (1) 資料等情報整備.....20
- (2) 情報システム.....23

3. 研究活動

- (1) 学術研究プロジェクト.....25
- (2) 研究紀要の発行.....26
- (3) JICA 海外移住懸賞論文26

4. 運営委員会・学術委員会

- (1) 運営委員会.....27
- (2) 学術委員会.....27

5. 各種実績等

(1)	貴賓来訪	28
(2)	その他	28
(3)	他館への資料貸出	28
(4)	各種実績データ	30

1. 展示・教育・広報

(1) 展示イベント等

企画展示1 コーヒーが結んだ日系人と日本

開催期間：6月29日（土）～10月6日（日）

開催期間中入館者数：13,031名

概要：日本におけるコーヒーの普及は、海外に渡った日本人移民と密接な関係があった。100年以上前にブラジルへと渡り、日本人移民が収穫していたコーヒーの一部が、日本にまで送られてモダンなカフェで日本人によって飲まれていた。ほぼ時期を同じくして、ハワイのコナでも日本人移民がコーヒー栽培に従事していた。ブラジル、ハワイにおけるコーヒーの歴史、日本人移民との関わりや移民が果たした貢献などについて紹介した。



企画展示2 ポリビアに生きる -日系人の生活とその心-

開催期間：11月2日（土）～2020年2月2日（日）

開催期間中入館者数：11,098名

概要：ポリビアにおける日系人は、約1万3千人と推測されている。ラパス市やサンタクルス市などの大都市や、戦後建設されたサンファン移住地、オキナワ移住地にはおおぜいの日系人が在住している。初期移民はペルーから転住した単身者が主流だったが、戦後、二つの日本人移住地が建設され、計画移民が開始された。そこでは助け合いや協働の精神が強く息づいている。これら多様な日系人へのインタビュー映像をとおして、ポリビアに生きる日系人の生活と日系コミュニティに生き続ける日本人の心を紹介した。



企画展示3 くまモンと学ぼう！熊本移民の歴史と活躍 -こぎゃんすごか、わさもんと肥後もっこす-

開催期間：3月7日（土）～6月7日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ全館休館中のため開催期間未定

概要：熊本県は、広島、沖縄に次いで第3位の海外への移民送出数を誇る移民県となっている。1885年のハワイへの第二回官約移民に始まり、戦前期には68,245人が熊本県から海外へ移住した。

世界へ広がった熊本移民は、移住先でリーダーとなる人材を多く輩出している。「移民の父」と呼ばれる上塚周平は、ブラジル第一回移民船「笠戸丸」に総監督として乗船し、全国からの移民を率いて自らもブラジルへ移住、現地での植民地建設に一生を捧げ、画家のマナブ間部は世界各地で個展を開催し、ブラジルを代表する画家となった。

展示では熊本移民の歴史と熊本出身の偉人を紹介し、さらに現在の世界各地と熊本県の絆も紹介する。



イベント1 「ペルー民族音楽「フォルクローレ」演奏」

開催日：2019年5月5日（日・祝）13:30-15:00

参加者：285名

概要：企画展関連イベントの1つとして、フォルクローレ演奏者のペルーの民族音楽コンサートを1階ロビーにて開催した。日本マチュピチュ協会によるミニ講演会、民芸品の物販も実施。大型連休中とあって、多くの参加者で賑わった。



イベント2 「あーすフェスタ 2019」

開催日：2019年5月18日（土）～19日（日）

参加者：134名

概要：横浜市栄区のあーすぷらざで毎年実施している多文化共生イベント。JICA 横浜のブース内に資料館紹介スペースを設け、パネル展示とリーフレット、パスポート等の資料配布および企画展の紹介を行った。

イベント3 「大江戸ハワイフェスティバル」

開催日：2019年5月31日（金）～6月2日（日）

参加者：7名（アンケート回答者）

概要：ベルサール東京（日本橋）で開催された大江戸ハワイフェスティバルに、当館所蔵のハワイ関連のパネル3枚と当館紹介パネル1枚を出典した。会場には、当館の各種チラシやパンフレットを配架し、広報に活用した。

イベント4 「海外移住の日記念イベント ブラジル日本移民を知る講演会」

開催日：2019年6月8日（土）13:00-16:00

参加者：78名

概要：ブラジル日本移民研究を専門とする公益団体「サンパウロ人文科学研究所（人文研）」の日本支部との共催講演会。講師は人文研派遣の日系社会青年ボランティアOB長尾直洋氏で、ブラジル日本移民史と人文研の歴史について講演し、多数の参加者を得た。講演後は人文研日本支部派遣研究生による報告、また長尾氏による資料館案内が行われた。



イベント5 「海外移住の日記念イベント 6月18日は海外移住の日」

開催日：2019年6月22日（土）～23日（日）

参加者：92名

概要：ブラジル日本移民にちなんだクイズを館内に掲示し、回答者へはブラジルコーヒー（ドリップ式）をプレゼントした。また子ども向けに「移民スゴロクで海外移住体験」を実施し、参加者へは中南米のお菓子をプレゼントした。



イベント6 「移民の七夕まつり」

開催日：2019年6月25日（火）～7月7日（日）

参加者：132名

概要：日本人移民がブラジルへ持ち込んだ、ブラジル式の七夕まつり（短冊の各色に意味付けがされている）を資料館入口で体験してもらった。また期間途中からはブラジルの七夕まつりに関するパネル展示も追加した。



イベント7 「浴衣で行こう！海外移住資料館」

開催日：2019年7月13日（土）～14日（日）

参加者：12名

概要：近隣にて開催の花火大会に合わせて、浴衣・甚平姿の来館者へブラジルコーヒー（ドリップ式）や南米のお菓子を配布した。

イベント8 「ミュージアム・ミッション2019」

開催日：2019年7月20日（土）～8月31日（土）

参加者：108名

概要：神奈川県立歴史博物館の主導の下、7か所の博物館・動物園共催で「ミュージアム・ミッション2019」のイベント「スタンプラリー（シールラリー）」を実施。当館では子ども向け教材「パスポート」内のハワイ関連問題3問をミッション内容とし、解答者へはハワイ移民に関連したミックスプレートのシールを贈呈した。

イベント9 「こども霞が関見学デー」

開催日：2019年8月7日（水）10:40-11:30

参加者：20名

概要：文部科学省が毎年夏休みに子ども向けに開催しているイベント。当館は「移民カルタで海外移住体験！！」と題して出前授業を行った。



イベント10 「子どもアドベンチャー2019」

開催日：2019年8月15日（木）～16日（金）

参加者：59名

概要：横浜市教育委員会生涯学習文化財課の実施イベントで、当館では移民スゴロクのクイズを利用して「移民クイズで海外移住体験」を実施、参加者へ参加賞として世界のあいさつ地図を、また最優秀賞として中南米のお土産をプレゼントした。



イベント11 「宝島ハロウィン 2019」

開催日：2019年10月26日（土）

参加者：1,622名

概要：新港地区賑わいづくり委員会主催の「宝島ハロウィン 2019」に参加。各施設がスタンプラリー・お菓子配布のポイントとなり、スタンプを集めた人が参加できる抽選会（会場：ワールドポーターズ）やシルバニアファミリーのショー・パレード（会場：運河パーク）が行われた。ポイントの1つを担った当館では館内の装飾（23日～31日）とスタッフの仮装、仮装グッズの貸出し、特別撮影スポットの設置を行った。また、開催当日には日本人海外移住先の挨拶の紹介と南米のお菓子のプレゼントを行った。



イベント12 「VIVA! 111 de Yokohama」

開催日：2019年11月24日（日）

参加者：58名（シンポジウム）

概要：「ブラジル solidario 横浜」主催、JICA 横浜協力のイベント。会議室1にてシンポジウムを行ったほか、11月17日（日）より24日（日）まで、ロビーでブラジルに関連する絵画展も開催した。シンポジウムにはパネリストとして海外日系人協会の小嶋茂氏も登壇した。午後の象の鼻パークのイベントも盛況であった。

イベント13 「海外移住資料館のプチ・クリスマス企画」

開催日：2019年12月3日（火）～25日（水）

参加者：103名（サンタ写真スポット利用者除く）

概要：三種類のクリスマスイベントを開催。「みんなでつくろう 移住国ツリー」では、移住先国の国旗カードにメッセージを書き、クリスマスツリーに飾ってもらった。「サンタに変身 記念撮影コーナー」は、サンタの衣装姿で記念撮影を行うもの。「海外のお菓子をプレゼント」は、JICA 横浜・資料館メールマガジン会員向けのイベントで、メールマガジンに記載した合言葉と交換で、ブラジルコーヒーやアルゼンチンのチョコレートをプレゼントした。



イベント14 「飯野正子学術委員長 瑞宝中綬章受章記念講演」

開催日：2019年12月16日（月）17:00-18:30

参加者：50名超

概要：「国際協力の輪—津田梅子と日系人コミュニティと日米関係」を演題として、新五千円札の顔になる津田梅子が、まだ女性教育への理解がなかった時代にどのように多くの人々の協力を得て津田塾大を開設するに至ったのか、自ら収集された資料を挙げて津田梅子と米国の日系人コミュニティ、そして国際協力について講演いただいた。



イベント15 「「悪いけど、日本人じゃないね」と言われて ～半分日本人で、半分別の人のアイデンティティって?～」

開催日：2020年1月25日（土）14:30-16:00

参加者：44名

概要：日系二世の日向ノエミア講師を迎えて、日本・ブラジル間の移住の歴史概要、ブラジル人と日本人の間のカルチャーショック、様々なバックグラウンドを持つ人のアイデンティティと3つのテーマを中心に講演いただいた。



公開講座 1

カフェパウリスタ、その始まりと現在^{いま}

開催日：9月1日（日）14:00-15:30

講師：長谷川 勝彦
（株式会社カフェパウリスタ社長）

受講者数：75名

概要 ブラジルのサンパウロ州政府より日本でのコーヒー普及を託された水野龍は、ブラジルコーヒー宣伝のために「カフェパウリスタ」をはじめた。現在同社社長である長谷川氏に、カフェパウリスタの歴史や、ブラジルでのオーガニックコーヒーの取り組みなど、カフェパウリスタの過去と現在を対比してお話いただいた。当日は多くの方々にお越し頂き、終了後にはカフェパウリスタ様提供で同社「森のコーヒー」の試飲会を開催した。



公開講座 2

映画「ガイジン-自由への道」上映会

開催日：10月5日（土）14:00-16:00

受講者数：69名

概要：企画展示「コーヒーが結んだ日系人と日本」に関連して、日本からブラジルへ渡った初期移民のコーヒー農園での生活を描いた映画「ガイジン-自由への道」の上映会を開催した。同作品は日系ブラジル人三世の映画監督チズカ・ヤマザキ氏による1980年の長編デビュー作で、同年のカヌヌ映画祭で国際批評家連盟賞を受賞している。日本未公開。



公開講座 3

日本人ボリビア移住 120 周年を迎えて

開催日：11月17日（日）14:00-15:30

講師：安仁屋 滋
（ボリビア日系協会連合会事務局長）

受講者数：59名

概要：ボリビア日本人移住 120 周年を迎えて、戦前移民の子孫は六世、戦後移住者は四世が誕生している。日系社会への変遷を踏まえ、日本人移住者の足跡と、ボリビア国内の政情、将来の日系社会像等について、ボリビア日系協会連合会事務局長の安仁屋氏にお話いただいた。



(2) 教育普及活動


1) 教育プログラムの概要

当館では、日本人移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。このような 21 世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、多文化社会の中で異なる文化を受容、尊重し、共生へ向けて行動できる市民としての資質という両方の育成が求められている。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

<p>【学習活動の手引き】無料配布</p> <p>この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示及び各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々への授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。</p>	
<p>【移民カルタ】貸出可</p> <p>日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。</p>	
<p>【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可</p> <p>このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、様々な工夫が凝らされている。（制作：移民カルタ研究会）</p>	
<p>【移民スゴロク】貸出可</p> <p>このスゴロクは、日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズとしても遊べるようになっている。小学生高学年以上対象。</p>	

【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全 4 種類。

- (上段左) 海を渡った日本人
- (上段右) カリナのブラジルとニッポン
- (下段左) ハワイに渡った日系移民
- (下段右) 弁当からミックスプレートへ



【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。

- ・野菜山車 (画像・トピックシート有)
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート (トピックシート有)
- ・移住斡旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・コーヒー用麻袋
- ・日系人が栽培している野菜
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ (トピックシート有)
- ・スパムセット
- ・Tシャツ (日系コミュニティのイベント等で使用されたもの)
- ・ブラジルの和菓子 (やぶれまんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、緑茶もち、金澤製菓画像。トピックシート有)
- ・ブラジル南米神宮のお守り (南米神宮画像、トピックシート有)
- ・ハワイのビッグファミリー (画像)



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】

<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルの米 ・ブラジルの干柿 <p>これらの教材を实际見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。</p> <p>なお、トピックシートに関してはホームページ上からダウンロード出来るよう対応されている。</p>	 <p style="text-align: center;">【ブラジルの和菓子】</p>
<p>【定点解説キット】</p> <p>日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等） ・ミックスプレート（写真パネル） ・スーツケース（写真カード入小箱、トランク等） ・移住物語（写真アルバム、複製パスポート） ・花と製品あてゲーム ・農作業具（写真パネル） ・日系商店（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等） ・日系人の食卓（写真アルバム） ・イグアス（空撮写真、アルバム等） ・宝さがし（中高生向写真カード、ゾーンマップ） 	
<p>【映像教材】貸出可</p> <p>日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下 6 種類は貸出も行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008 年、53 分） ②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009 年、85 分） ③DVD「JICA 横浜 海外移住資料館」（制作：2009 年、11 分） ④DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分） ⑤DVD「100 年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011 年、57 分） ⑥DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013 年、40 分） <p>※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすぎきじゅんいち監督より寄贈を受けた。</p>	
<p>【パスポート】</p> <p>当館概要、海外移住の歴史、ワークシート、来館記念スタンプ用紙などを一つの冊子にまとめ、作成した。学生はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、見学後、見学した内容を簡単に振り返る事が出来るよう工夫されている。</p>	

2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、質問事項への対応等を実施した。本年度の教育プログラム実施件数は 233 件、総受講者数は 9,508 名となった。四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
件数	77	56	64	36	233
総受講者数	3,898	1,696	2,580	1,334	9,508

※件数は実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(a) 第 1 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	ボーイスカウト大和5団、深谷市立深谷小学校	2	120
中学校	伊勢市立城田中学校、富士見中学校、仙台市立第一中学校、鶴岡市立鶴岡第三中学校、四日市市立西笹川中学校、匝瑳市立八日市場第二中学校、京都市立醍醐中学校、宮城教育大学附属中学校、平塚市立金目中学校、相模原市立新町中学校、横須賀市立追浜中学校、札幌市立稲積中学校、四日市市立内部中学校、大阪市立此花中学校、日本大学中学校、川越市立名細中学校、平塚市立中原中学校、平塚市立江陽中学校、平塚市立金旭中学校、横浜市立潮田中学校、小田原市立白山中学校、市原市立五井中学校、平塚市立春日野中学校、平塚市立浜岳中学校、横浜市立大鳥中学校	25	2,164
高等学校	藤嶺学園鶴沼高等学校、東京都立城東高等学校、関東学院高等学校、埼玉県立浦和工業高等学校、横浜市立東高等学校、岡山県立津山高等学校	6	650
大学・専門学校	和洋女子大学国際学科、コロンビア大使館、立教大学社会学部石井ゼミ、Loyola Marymount University、神奈川大学外国語学部（中松先生）、多摩大学グローバルスタディーズ学部、松蔭大学、早稲田大学社会科学部、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター、日本大学法学部佐渡友ゼミ、ワシントン大学、恵泉女学園大学フジオカゼミ、お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科教育科学コース	13	284

特別支援	横浜市地域活動支援センターアトリエ窓、神奈川県立横浜南養護学校、藤沢市学校教育相談センター善行分室相談支援教室、横浜市立上菅田特別支援学校中学部	4	39
その他	2019年度1次隊JICA海外協力隊 日系社会技術補完研修 受講者、ダンスサークルブラジル、NPO法人横浜シティガイド協会、JICA青年海外協力隊事務局参加促進課、JICA新人職員、JICA東京、2019年度1次隊JICA海外協力隊 日系日本語教授法集合研修受講者、設友会in横浜、神奈川県警察学校由野台分校、マウリシオ・デ・ソウザ氏一行、神奈川県中小企業団体中央会、横浜さくらの会、神奈川県警察学校（5回）、JICA日系研修員（3回）、港南ブラザ親和会、JICA東京市民参加協力第一課、監査懇話会、ゆうの会、株式会社オフィス201、JICA横浜教師海外研修参加者、横浜市役所財政局	27	641
合計		77	3,898

(b) 第2 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	アデック知力育成教室、ペルー日系野球児童（株式会社ファンケル）、横浜山手中華学校アフタースクール、横浜市立四季の森小学校、横浜市立永田台小学校	5	235
中学校	日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）、相模原市立大野南中学校、東星学園中学校高等学校、鹿児島県徳之島町教育委員会、横浜市立南高等学校附属中学校、文教大学附属中学校、町田市立町田第三中学校、川西町立川西中学校、藤嶺学園藤沢中学校	9	557
高等学校	一般社団法人国際フレンドシップ協会、清泉女学院高等学校、橘学苑高等学校、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校、佐賀県立佐賀西高等学校、横浜隼人高等学校、開智中学高等学校、浦添市役所、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、神奈川県立上溝高等学校、神奈川県立横須賀明光高等学校	11	362
大学・専門学校	神奈川県立保健福祉大学（五味先生）、東京都市大学環境学部環境マネジメント学科佐藤研究室、日系次世代研修（大学生）、東海大学教養学部国際学科、同志社大学峯陽一教授、早稲田大学大学院日本語教育研究科、横浜市立大学都市社会文化研究科、早稲田大学（森本豊富ゼミ、2回）、広島県地域政策局国際課、中央大学、法政大学社会学部中筋直哉ゼミナール、関東学院大学中泉ゼミ、首都大学東京人文社会学部	14	186

特別支援	ライズ児童デイサービス川崎西口	1	14
その他	小田原市交通安全母の会連絡協議会、茅ヶ崎市文化団体協議会ホノルル文化交流委員会、JICA東京教師海外研修、クラブツーリズム横浜エコースタッフ交流、藤沢市小学校教育研究会国際教育部、JICA日系研修員、横浜市港南区遺族会、横浜市立仏向小学校教員、ケンミン食品株式会社海外事業部、日本私立小学校連合会外国語部会（桐光学園小学校麻生先生）、JICA横浜神奈川県教員5年次社会体験研修、横浜市役所財政局、2019年度2次隊JICA海外協力隊日系社会技術補完研修受講者、横浜市緑区役所、横浜市環境創造局、横浜市栄区役所	16	342
合計		56	1,696

(c) 第3 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	さいたま市立徳力小学校、カナディアンインターナショナルスクール、大和市立引地台小学校、横浜市立潮田小学校、横浜市立川上小学校、横浜市立仏向小学校、横浜市立三保小学校、横浜市教育委員会（横浜平和スピーチコンテスト）	8	625
中学校	杉並区立大宮中学校、大磯町立国府中学校生沢分校、大手前丸亀中学校、横浜市立南高等学校附属中学校、横浜市立蒔田中学校夜間学級、府中市立府中第八中学校、公文国際学園中等部	7	133
高等学校	埼玉県立浦和西高等学校、神奈川県立相原高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、岐阜県立岐阜高等学校、熊本県立済々黉高等学校、熊本県立鹿本高等学校、神奈川県立川崎高等学校	7	724
大学・専門学校	横浜市立大学国際教養学部、明治学院大学、帝京大学教育学部中山京子ゼミ、青山学院大学教育学部、明治学院大学、政策研究大学院大学、恵泉女学園大学フジオカゼミ、東洋大学荻野ゼミ、共立女子大学、多摩大学グローバルスタディーズ学部、一般財団法人日本国際協力センター	11	379
特別支援	横浜市立中村特別支援学校、NPO 法人中途障害者地域活動センターフレンズ南、神奈川県立保土ヶ谷養護学校舞岡分教室	3	52

その他	JICA日系研修員（3回）、横浜市旭区役所、外務省中南米局南米課（次世代日系人指導者招へい）、北米報知出版ジャパンツアー、万歩の会、外務省領事局政策課（即位の礼招へい海外日系人代表者団）、逗子市ボランティア連絡協議会、横浜市中区役所、神奈川県警察学校（3回）、横浜市旭区役所、横浜市南区役所、静岡県菊川市教育委員会社会教育課、2019年度3次隊JICA海外協力隊日系社会技術補完研修受講者、横浜市環境創造局、麗澤会神奈川、JWC JGC WALKING CLUB、日中植林・植樹国際連帯事業2019年度中国大学生友好交流訪日団浙江省分団（静岡県）、横浜市民局、横浜市保土ヶ谷区役所、かながわ健生クラブ、外務省北米局北米第一課、磯子台自治会秋桜の会歩こう会、逗子ボランティアリーダーガイド倶楽部、JICA高知デスク	28	667
合計		64	2,580

(d) 第4 四半期：

	団体名	団体数	受講人数
小学校	聖ヨゼフ学園小学校、ガールスカウト東京第36団	2	67
中学校	日本大学中学校、藤沢市立第一中学校、日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）・横浜市立仲尾台中学校、江戸川区立松江第二中学校、藤沢市立秋葉台中学校、世田谷区立富士中学校、江戸川区立松江第四中学校、台東区立柏葉中学校	8	719
高等学校	神奈川県立横浜国際高等学校、法政大学第二高等学校、2019年度JICA日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）、福岡県立小倉南高等学校、法政大学第二高等学校、ラ・ウニオン学校、法政大学国際高等学校	7	196
大学・専門学校	東海大学教養学部万城目ゼミ（2回）、早稲田大学大学院日本語教育研究科、中央大学FLP国際協力ゼミ、岐阜大学教育学部史学専攻、一般財団法人日本国際協力センター	6	120
その他	中南米日系社会との連携調査団（JICA中南米部）、JICA日系研修員（日系協柴部様）、NPO法人川崎市民アカデミー「環境とみどり」グループ、ひまわり会、横浜市保土ヶ谷区役所地域振興課、福島県国際課（中南米国・北米移住者子弟研修受入事業）、NALC東神奈川、みんなで楽しく歩こう会、関東甲信越静地区国際教育研究協議会、外務省中南米局南米課（2回）、横浜市環境創造局、湘南大場地区社会福祉協議会	13	232
合計		36	1,334

【プログラム例 大学生向け（1.5時間）】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
- ② ボランティアガイドによる解説付きでの資料館見学

【プログラム例 高校生向け（1.5時間）】

- ① ボランティアガイドによる解説付きでの資料館見学
- ② ボランティアガイドによる個別説明（ハワイ）

【プログラム例 中学生向け（1時間）】

※いみんトランクで事前学習

- ① パスポートを活用した資料館見学
- ② ボランティアガイドによる解説
- ③ 移住教材貸出による事後学習

【プログラム例 小学生向け（1時間）】

- ① 移民かるたを活用した宝探しによる資料館見学
- ② ボランティアガイドによる解説



3) ボランティア管理運営

(a) ボランティア活動の概要

当館では、以下の業務をボランティアが実施している。

展示案内ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2019 年度末時点で、登録者数は 21 名。なお、展示案内ボランティアの配置状況は以下のとおりとなっている。

- ・第 1 四半期：252 人配置（77 開館日、平均 3.3 人配置）
- ・第 2 四半期：244 人配置（78 開館日、平均 3.1 人配置）
- ・第 3 四半期：234 人配置（77 開館日、平均 3.0 人配置）
- ・第 4 四半期：151 人配置（48 開館日、平均 3.2 人配置）

(b) ボランティア連絡会議の実施

ボランティア連絡会議を開催し、情報の共有および今後の活動についての意見交換を行った。2019年度は以下の通り実施した。

ボランティア連絡会議

- ・第 1 回 6 月 28 日（金）開催 参加者：14 名
- ・第 2 回 11 月 1 日（金）開催 参加者：15 名

※第 3 回を 3 月 6 日（金）に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大をふまえ開催を中止

(3) 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2019年度は2回発行。企画展示の内容をテーマに、展示内容及び収蔵資料等を紹介した。発行部数7,000部。

主な配布先は、都道府県国際交流課及び国際課、教育委員会や、各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜及び川崎市市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の国際交流協会など、約2,000件。その他、常設展示スペース等で随時配布している。

No.	発行	コンテンツ
52	2019年 11月	特集 ポリビアに生きる日系人—守りゆく伝統、見据える未来—
53	2020年 3月	特集 熊本は我らのルーツ！—7万人の海外移住者とその子孫



No.52



No.53

2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

(1) 外部媒体への掲載

朝日新聞／神奈川新聞／東京新聞／毎日新聞／読売新聞／日本経済新聞／奄美新聞／広報徳之島／ニッケイ新聞／FMサルース／ハロー神奈川／ラテンアメリカ協会／日本ポリビア協会／サンパウロ人文科学研究所／なか国際交流ラウンジ／Mirea／Mundi／横浜市暮らしのガイド／横浜ビクターズガイド／横浜観光コンベンション・ビューロー／タウンニュース／MEGA BRASIL／移動教室年鑑／はまっぴろ／横浜観光情報公式サイト等

3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示及び企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞／神奈川新聞／産経新聞／東京新聞／毎日新聞／読売新聞／ヨコハマ経済新聞／共同通信社／時事通信社／ニッケイ新聞／サンパウロ新聞／NHK

／JCOM／TVK／日本テレビ／テレビ朝日／TBS／神奈川県政記者クラブ／横浜市政記者室等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化理解・共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

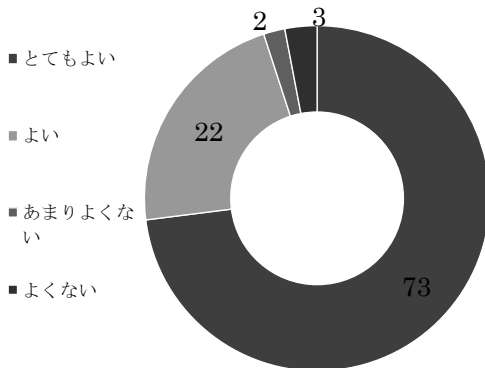
情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2019年度は計16回配信した。メールマガジンは月1回の配信を基本とし、配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2019年度末時点で、友の会会員はDM会員：285名、メール会員：1,597名となった。

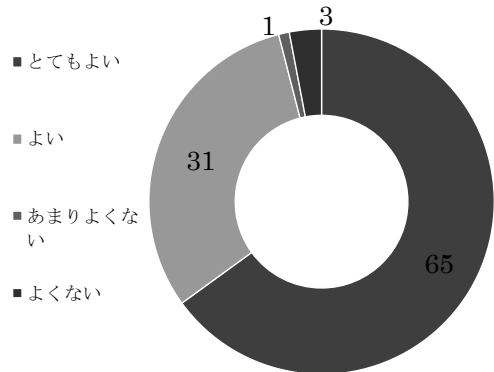
(4) アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した。回答総数は178件。4段階で評価いただいたが、すべての設問において、無回答を除いた有効回答の9割以上が「とても良い」「良い」を選択しており、大変良好な回答を得た。

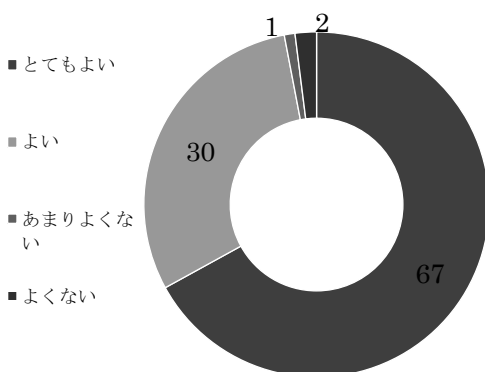
展示の内容



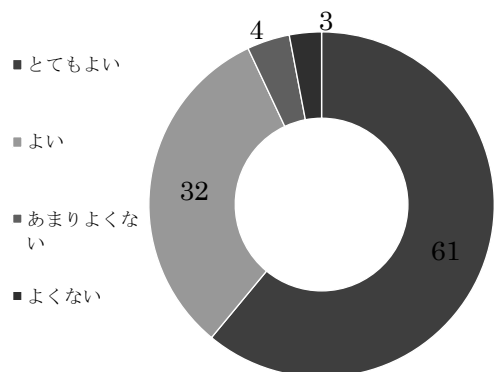
展示ガイドによる展示解説



受付の対応



海外移住資料館だより



2. 資料収集・整備

(1) 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を、寄贈、購入、取得等の方法で収集し、登録した。また、前年度までに受入をし、未整理となっていた資料についても、整理、登録を行った。

2019年度受入・登録件数は665件。未整理資料の整理・登録件数は2,027件。

2019年度受入資料の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	47	92	51	32	222
購入	55	5	14	29	103
寄贈	123	97	46	28	294
移管	0	7	0	0	7
寄託	0	0	0	0	0
その他	2	31	5	1	39
合計	227	232	116	90	665

未整理資料（2018年度以前受入資料）の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	0	115	351	358	824
購入	0	0	350	134	484
寄贈	0	1	442	233	676
移管	0	0	0	43	43
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	0	116	1,143	768	2,027

2) 資料の整理

(a) 海外移住事業に関する所蔵資料 1. 移住申込書関係資料

海外移住センター旧蔵資料のうち業務簿冊に含まれる移住申込書関係資料について、及び、JICA 沖縄センターから移管された移住申込書関係資料について、整理作業を実施した。

なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと実施している。

- ・海外移住センター旧蔵資料のうち業務簿冊に含まれる移住申込書関係資料の整理

作業件数：①データシート記入作業…0件

②葉数確認作業…7件

③ファイル番号付与作業「移住申込書作業記録」入力…452件

- ④データベース入力作業…452件
- ・ JICA沖縄センターから移管された移住申込書関係資料の整理
作業件数：①簿冊の解体…170件 ※簿冊13点
- ②データシート記入…170件
- ③データベース入力（移住申込書作業記録）170件
データベース入力（データシート記載情報）170件
- ④スキャニング及び画像確認（スキャニング）49件（計376葉）

(b) 海外移住事業に関する所蔵資料 2. 海外移住センター旧蔵写真類

海外移住センター旧蔵資料のうち情報記載がなく詳細不明な一部写真類については、開館後、JICA元職員の当館ボランティアにより、その内容記入が行われた。その後、未整理のまま保管されていたこれらの写真類について、フィルムシート・ファイルへの格納、データ入力作業を実施した。

- 作業件数：①フィルムシート・ファイル格納：416件
- ②データ入力：112件

(c) 海外移住事業に関する所蔵資料 3. JICA前身機関作成ロツテ図（移住地の区画図）

デジタルデータ化実施の後、筒に収めて保管されていた本資料について、資料への負担が見られたことから、筒から取り出してカビや埃を除去した後、資料リストと照合し、一般収蔵庫ポスター用保存棚へ格納する作業を実施した。

- 作業件数：筒30点（図面ファイル173点）

(d) 伊藤一男関連資料

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長。『北米百年桜』の著者。）のご遺族より寄贈を受けた資料について、概要入力作業、及び、これまで入力したデータの整理作業を実施した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

なお、本作業は、柳田学術委員の指導・助言のもと、実施している。

- ・ 概要入力作業
資料群ごとに写真撮影、資料番号及び分類記号を付与し、資料の内容を入力した。
作業件数：611件（資料群の数）／53箱（コンテナ数）
- ・ 目録データ整理作業
2016年8月に行った整理方針の見直し以降、新規整理方針に則り入力作業を行ってきたが、目録公開を見据えて、旧目録と新目録を整える作業を実施した。
作業件数：①旧目録の整理作業 340件（資料群の数）
②新目録の整理作業 47件（資料群の数）

(e) 未整理標本類

収蔵品のうち未整理となっている標本類について、概要入力作業を実施した。

- 作業件数：486件（資料群の件数）

(f) 図書資料等

既に登録されている図書資料等を対象とした書誌情報の修正、不足情報の追加、複本確認等の作業を実施した。

- 作業件数：3,756件

(g) 海外邦字新聞の収集・整理・データ化

当館で原紙を受入れている海外邦字新聞（26紙）について、目録作成作業を実施した。

また、「国内外の機関等による邦字紙等日系移民関連資料の保有状況の現況調査・インベントリ

一作成、収集・保存、当該資料の活用」を目的とした新規業務を開始した。本業務は主に中南米で発行された（されている）邦字紙等日系移民関連資料が国内外の機関において何がどれぐらい、どのような形式で所蔵されているかなどの所蔵状況を調査し、デジタル化されていない原紙の所蔵が確認された場合に所蔵機関と協力して、デジタル化を行い、日系社会の歴史を伝えてきた邦字紙等日系移民関連資料の滅失、散逸を防ぐことを目的として実施している。本年度は、海外調査としてペルー及びアルゼンチンの邦字紙等日系移民関連資料の調査を行った。その他、上記(d)伊藤一男関連資料の中からブラジルで1949年より発行された、いわゆる勝ち組系新聞の一つである『昭和新聞』のうち、第34号(1950年1月1日)～第599号(1955年12月22日)及び『昭和こども新聞』(第5号～第39号)が発見され、目録の作成及びデジタル化作業を行った。これらは現時点で国内外のいずれの機関にも収蔵が確認されていない貴重な邦字紙である。

他にも一般財団法人日伯協会(神戸市)所蔵の船内新聞「らぶらた新聞」(創刊号から廃刊号までの全13号)のデジタル化作業を、同センター内で実施した。当該資料は1938年3月23日に神戸港より出帆したらぶらた丸内において、移民の方々により出版されていた新聞で、発行部数が少なく、原紙が現存している可能性が極めて低いと言える貴重資料である。

(h) その他

上記整理作業実施に伴う格納場所確保のため、収蔵庫各所において、資料の棚移動作業を実施した。

3) 収蔵環境の整備

(a) 特別清掃

常設展示場、企画展示室、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫等について、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

(b) 収蔵庫等の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫と、資料の展示を行う企画展示室壁面ショーケース内について、環境調査を専門業者へ依頼。有機酸・アンモニア濃度の測定及び解析を実施した。

(2) 情報システム

1) 情報検索システム

(a) 情報検索システム運用

閲覧室で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2019年度末時点登録数：25,116件（うち図書類：23,267件、標本類：1,849件）。

URL: http://search.jomm.jp/search/html/koukai/k_search.html

(b) 登録データの整備

既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は3,756件。

2) 海外移住資料館 web ページコンテンツ

(a) 移住資料所蔵機関情報

国内及び海外における博物館、図書館、研究機関その他団体等のうち、「日本人の海外移住の歴史」に関する資料を所蔵・公開している機関について、情報提供するコンテンツを製作。移住資料所蔵機関の所在地、所蔵資料の概要、過去の展示実績等の情報を集約し、多くの皆様に提供することを目的としている。引き続き、関係諸機関の皆様より情報提供等の協力をいただき、順次追加していく予定。

URL: <https://www.jica.go.jp/jomm/shozokikan/index.html>



(b) JICA 横浜 海外移住資料館 研究紀要

当館で行われた学術研究の成果を広く社会に発信することを目的として、2006年より刊行している『研究紀要』について、PDF版を製作し、当館 Web ページにて公開した。

URL: <https://www.jica.go.jp/jomm/kiyo/index.html>



(c) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめている。また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。

現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。



- ・広島市デジタル移民博物館
- ・オキナワポリビア歴史資料館
- ・アルゼンチン日本人移民史
- ・ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
- ・中南米移住地記録写真集 1964

なお、本プロジェクトサイトはコンテンツ全体にアドビ社の FLASH（フラッシュ）を使用している。FLASH はインターネット上の各種コンテンツに利用されてきた技術だが、アドビ社が FLASH のサポートを 2020 年で終了することが発表されたため、当館においても FLASH を使用しないシステムへの更新作業を本年度 9 月より開始した。本年度はシステムの構築及び上記プロジェクトサイトのうち、「中南米移住地記録写真集 1964」コンテンツの新システムへの移行作業を完了した。アドビ社のサポート終了となる 2020 年 12 月までにその他の 4 サイトについてもコンテンツの移行作業を完了する予定である。

3. 研究活動

(1) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の4プロジェクトが、2018年度より活動している。学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

1) 第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献

【概要】1942年、カナダ政府は、カナダ西海岸に居住していた21,000人の日系カナダ人を適性外国人として内陸部に強制移動した。それらの日系人は、戦後、カナダに留まる者は「ロッキー山脈の東」へ移動、それを望まない者は日本に「送還」、というカナダ政府の通達による選択を迫られた。ロッキー山脈の東への移動を拒否した日系人は、カナダ生まれであっても日本に送られることになり、これは「国外追放」であると言われ、大きな混乱を生んだ。結果的には約4,000人の日系人が、戦争で疲弊した日本に到着したと記録されている。これまでの調査・研究により、これら4,000人の日系人が戦後の日本でどのように受け入れられたか、その後、定着したか、カナダへ戻ったか、についてはかなり把握されている。これらの日系人が日本との絆をどのように意識し、日本とカナダの関係にどのように関わろうとしたのかについて調査する。

【プロジェクトリーダー】飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）

2) 転換期における移住と日系社会の変容（1920～1950年代）

【概要】ベルサイユ体制からワシントン体制そして総力戦体制から冷戦体制の構築に至る時代の転換期における移住と、南北アメリカ大陸諸国における日系社会の変容とを、二国間関係や戦争といった枠組みを越えた多国間関係の史的展開の中に再配置し、参加メンバーがこれまで蓄積してきた各地域の個別事例研究を基礎に議論を重ねることを通じて、移住とエスニック・コミュニティとしての日系社会の変容について、新たなる研究地平の再構築を試みる。

【プロジェクトリーダー】柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

3) 海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー

【概要】本プロジェクトは、前プロジェクト「海外移住150年を振り返る：移動する人の視点からみる国際関係」の問題意識や視座を継承しつつ、対象時期を幕末・明治初期に広げ、海外交流・渡航・移住をグローバルヒストリーに位置づけることを目的としている。従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的にとらえ、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、そして「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトは、グローバルな人やモノの交流、移動との連鎖の観点から、多様な移住の過程で、日本人は「外国人」として、また「人種」として、どのような位置づけがなされていったのか、日本人や日本へのまなざしの変容の背景には何があったのか等について検証する。従来の研究では見落とされてきた初期の海外交流・渡航・移住の歴史について、国家間の「国際関係」の編成過程を背景とした、幕末・明治の初期移住の歴史像を解明し、研究会、公開セミナーや出版等の形で、本プロジェクトの研究成果を広く社会にアウトリーチすることとしたい。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学教授）

4) 在日ラテン系二世の社会参加に関する研究

【概要】本プロジェクトは、日本デカセギ 25 年の節目にあたる 2015 年から 2017 年までの 3 年間にわたって実施した学術研究プロジェクト「在日ラテン系二世の多角的分析」を通して得た知見と体験を新たな研究に生かしつつ、持続的に発展させるために提案するものである。前プロジェクトでは、「日本、南米、もしくは両地をまたにかけて、あるいは、越境という概念そのものさえも超えてゆきつつ成長している出稼ぎ二世の世代」を主たる対象として、日本各地のデカセギ南米人集住地域での調査や、JICA 横浜海外移住資料館を主会場としたイベント（ワークショップやパネルディスカッション）の場における参与観察を実施し、在日ラテン系二世たちの抱える問題や意識をあぶり出してきた。越境する彼ら在日二世のアイデンティティの問題は先行研究でもたびたび指摘されてきたが、その揺らぎは、空間的のみならず時間的なそれも含んでいると考えられ、前プロジェクト内で実施してきた「先祖探しワークショップ」のようなイベントは、研究の場であると同時に、彼らと日本とを繋ぐ役割をわずかでも果たすことが期待できるだろう。
【プロジェクトリーダー】赤木妙子（目白大学教授）

(2) 研究紀要の発行

当館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第 14 号』を発行した（2020 年 3 月発行）。論文題目等は以下のとおり。

【論文】

第二次世界大戦直後に日本に「送還」された日系カナダ人のその後

— 日加文化交流・日加友好関係増進に向けての活動 —

津田塾大学理事・名誉教授 飯野 正子

東洋学園大学・元教授 高村 宏子

外務省外交史料館・元副館長 原口 邦紘

田中貞吉再考 — 日本人ペルー移住とラテンアメリカの富源 — (上)

慶應義塾大学・名誉教授 柳田 利夫

【研究ノート】

在日ペルー系二世と「先祖探し」ワークショップ

— 多文化共生の地平から —

目白大学・教授 赤木 妙子

(3) JICA 海外移住懸賞論文

日本国内に急増する外国人とのよりよい共生が課題となるなか、日本人の海外移住の 150 年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として 2019 年度に「JICA 海外移住懸賞論文」を創設した。

第一回懸賞論文のテーマは「中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究」であり、このねらいは中南米で過去に発行された邦字新聞を活用した研究、または邦字新聞そのものを対象にした様々な研究結果を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、併せて歴史的に貴重な資料である邦字新聞の収集（発見）、保管、活用を促進することであった。

2019 年 10 月に募集開始し、2020 年 2 月末に応募を締め切った。6 月に審査結果を発表予定。

4. 運営委員会・学術委員会

(1) 運営委員会

当館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。

(2) 学術委員会

当館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、JICA 横浜所長（海外移住資料館長）により構成される。

【2019 年度 学術委員会開催】

- ・ 第 1 回学術委員会（5 月 24 日）
- ・ 第 2 回学術委員会（11 月 18 日）
- ・ 第 3 回学術委員会（12 月 16 日）

【2019 年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学理事・名誉教授
委員	島田法子	日本女子大学名誉教授
	中牧弘允	吹田市立博物館館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂岳雄	中央大学教授
	柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授
	熊谷晃子	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

5. 各種実績等

(1) 貴賓来訪

1) マウリシオ・デ・ソウザ氏来館

ブラジルの国民的漫画家マウリシオ・デ・ソウザ氏が4月16日に来館。館内を見学した後、当館の熊谷晃子館長らと対談した。来館の記念にブラジルと日本の交流や友好をテーマに描かれた『モニカ&フレンズ ブラジルと日本』の日本語版とポルトガル語版が配布用に寄贈された。

2) 秋篠宮眞子内親王殿下御視察

7月にペルー、ボリビアのご訪問を予定しておられた秋篠宮眞子内親王殿下が4月22日にご来館。当館の熊谷晃子館長らの案内のもと、当館で開催中のペルー日本人移民 120 周年記念の企画展示をご視察された。

(2) その他

1) 第一回ハワイ官約移民・大槻幸之助氏の資料寄贈式を開催

当館が15年にわたり寄託を受けてきた、第一回ハワイ官約移民である大槻幸之助氏の資料(約 700 点)をこの度寄贈していただくことになり、11月6日に氏の孫にあたる大槻 統さんらを迎え、資料の寄贈ならびに感謝状の贈呈を行った。

2) 海外移住資料館来館者数 60 万人を達成

海外移住資料館の来館者数が 60 万人を達成した。12月6日に、横浜市戸塚区の公文国際学園中等部 1 年生と引率の先生の合計 26 名のグループを迎えてセレモニーを行った。

(3) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像 68 点	常設展示利用
4/1	ABC インターナショナル	画像 3 点	
4/1	テレビ和歌山	画像 2 点、映像 4 点	
4/1	日伯協会	図書 4 点、標本 35 点	常設展示利用
4/1	広島市	画像 6 点、映像 3 点	常設展示利用
4/6	GR プランニング	画像 3 点、映像 1 点	
4/16	神奈川県立図書館	画像 5 点	
4/20	長野放送	映像 6 点	
4/24	テレビ朝日	画像 2 点	
4/25	読売新聞	画像 5 点	
5/18	長野放送	映像 2 点	
5/24	日本マチュピチュ協会	画像 15 点	
6/1	在ボリビア日本国大使館	映像 6 点	
6/5	毎日放送	画像 2 点	
6/13	ハウフルス	画像 5 点	

6/19	研究者	画像 1 点	
6/22	ワサビ	映像 9 点	
6/27	駒ヶ根市立赤穂南小学校	画像 2 点	
7/5	徳島ブラジル友好協会	パネル 10 点	昨年度、貸出した画像データを元にパネル作成。
7/5	中國新聞社	画像 1 点	
7/12	フジテレビジョン	画像 5 点	
7/16	ワサビ	映像 1 点	
7/18	日東珈琲	画像 1 点	
7/23	ハーツコーポレーション	画像 8 点	データを元にパネル作成
7/23	研究者	映像 8 点	
7/24	ワサビ	画像 35 点	
7/31	国立歴史民俗博物館	標本 26 点	国立歴史民俗博物館の企画展にて展示
8/13	毎日映画社	画像 4 点	
8/27	Festival Brazil in Kamakura	パネル 10 点	
8/28	資料館ボランティア	画像 1 点	
8/31	和歌山県国際課	画像 31 点	
9/5	沖縄映像センター	画像 1 点	
9/6	読売新聞社会部	画像 2 点	
9/12	トメアスーアマゾン日本人移住 90 周年記念委員会	映像 1 点	
9/12	少年写真新聞社	画像 1 点	
9/18	コンデックス	画像 2 点	
9/20	日本貿易振興機構	画像 3 点	
10/9	和歌山県国際課	画像 12 点	
10/28	テレビ和歌山	映像 1 点	
11/15	テレビ和歌山	映像 1 点	
11/26	テレビ朝日	画像 7 点、映像 7 点	
11/26	テレビ朝日	映像 2 点	
12/9	秋田テレビ	映像 3 点	
12/13	沖縄県立図書館	映像 5 点	
12/16	秋田テレビ	画像 1 点、映像 2 点	
12/25	沖縄県立図書館	映像 3 点	
12/26	海外日系新聞放送協会	画像 5 点	
1/9	神戸海洋博物館	画像 1 点	常設展示利用
1/10	山川出版社	画像 1 点	
1/14	NPO 法人いなかみ	映像 1 点	
1/15	オフィス 201	画像 1 点	
1/27	海外日系新聞放送協会	画像 2 点	
2/6	二宮書店	画像 1 点	
2/13	テレビ朝日映像	画像 1 点	
2/17	テレビ朝日映像	画像 1 点	
2/21	山川出版社	画像 4 点	
3/7	研究者	画像 2 点	

(4) 各種実績データ

2019年度業務実績一覧

2019.4～2020.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	3,783	6,589	3,499	3,090	4,759	3,728	4,359	4,334	3,133	3,403	2,366		43,043
(前年度比)	119%	140%	101%	143%	117%	120%	62%	108%	89%	125%	85%		97%
一般	2,965	4,743	2,189	2,548	4,359	3,202	3,624	3,287	2,705	2,471	2,050		34,143
学校関係	818	1,846	1,310	542	400	526	735	1,047	428	932	316		8,900
15歳未満	417	1,787	1,095	577	670	516	996	852	370	873	400		8,553
15歳以上	3,366	4,802	2,404	2,513	4,089	3,212	3,363	3,482	2,763	2,530	1,966		34,490
個人	2,683	4,426	2,036	2,356	4,156	3,083	3,329	2,888	2,444	2,286	1,822		31,509
団体	1,100	2,163	1,463	734	603	645	1,030	1,446	689	1,117	544		11,534

※開館からの累計:611,932名

※2019年10月開催予定のよこはま国際フェスタが台風で中止となり、入館者減

※2020年3月は新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため、記録なし

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	16	30	31	24	18	14	15	33	16	24	12		233
実施対象人数	700	1,979	1,219	736	479	481	874	1,209	497	915	419		9,508

※2020年3月は新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館のため、記録なし

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	126	96	86	82	99	63	66	84	63	77	72	44	958
JICA	3	0	2	1	1	0	1	4	1	1	0	0	14
教育機関	26	15	11	6	7	9	10	9	7	8	1	1	110
国内団体	4	11	16	21	22	11	14	18	12	19	23	24	195
個人	59	63	47	42	51	29	36	42	31	43	33	17	493
自治体	0	3	4	4	7	1	3	3	0	1	2	0	28
制作会社・マスコミ	34	2	5	7	10	13	2	8	12	4	13	2	112
国外団体	0	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	6

図書資料室(海外移住)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	333	253	266	272	320	194	231	375	284	317	195	66	3,106
(前年同比)	126%	85%	101%	90%	125%	108%	81%	167%	122%	110%	98%	30%	103%
一般	74	86	113	93	115	67	61	138	81	109	72	4	1,013
マスコミ等	10	7	11	29	12	6	4	9	24	4	0	0	116
JICA関係(業務)	153	116	118	137	136	121	140	135	164	123	120	62	1,525
JICA関係(研修)	96	44	24	13	57	0	26	93	15	81	3	0	452

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	72	53	102	71	120	41	44	30	42	24	24	42	665
(うち取得)	16	23	8	24	51	17	15	14	22	21	4	7	222
(うち購入)	47	0	8	4	1	0	9	0	5	0	4	25	103
(うち寄贈)	9	29	85	11	62	24	20	11	15	2	16	10	294
(うち移管)	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	7
(うち既存資料)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち寄託)	0	1	1	31	0	0	0	5	0	1	0	0	39

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	4,964	5,839	5,883	6,121	5,279	4,344	4,821	4,933	4,707	5,174	3,628	3,130	58,823
Pages(利用数)	13,348	15,205	13,424	14,681	13,363	10,527	11,824	12,488	12,333	14,503	10,160	9,544	151,400

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	1,361	1,409	1,416	1,451	1,574	1,763	1,701	1,914	1,733	1,773	1,763	1,713	19,571
(前年同比)	155%	91%	47%	72%	667%	103%	101%	118%	83%	120%	125%	111%	102%
検索件数	1,857	893	1,067	861	1,007	865	952	1,337	1,191	1,265	1,221	511	13,027
(前年同比)	150%	87%	106%	115%	104%	99%	94%	171%	157%	139%	180%	64%	121%

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2019 年度

発 行：独立行政法人国際協力機構横浜センター
海外移住資料館

発行年月：2020 年 9 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-222-7162

Web : <https://www.jica.go.jp/jomm/>

E-mail : jicayic_jomm_info@jica.go.jp

